東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2008年4月4日

浪費

ムスリムの皆様。イスラームの教えが、安らぎに満ちた人生の為に備えている原則の一つが、倹約と、節度を保つことです。倹約すること、節度を守ることは、飲み食い、会話、出費、そしてこれらに類似するあらゆることにおいて指針となります。これに相反するものが、浪費です。

クルアーンの表現において、『サルフ』という形で、アラビア文字サアドで記された言葉は、倹約した、慎ましい使い方という意味を表します。従って『お金をためる』という意味をも持つ『タサールフ』という言葉は、このアラビア文字サアドを用いた語根から生じているものです。しかし、アラビア文字シィーンで書かれる『セルフ』は、慎ましさを持たない使い方ということが出来ます。つまり人は無駄遣い・浪費（イスラフ）を行なった時、この世においても来世においても何らかの益や見返りを手にすることができないということです。浪費は論理に適ったものでなく、見返りをもたらさない点において害のあるものであり、だからこそイスラームはそれを禁じている、という結論に達することができるのです。

崇高なるアッラーは、成熟したムスリムの特質について次のように仰せられておられます。「また（財貨を）使う際に浪費しない者、また吝嗇でもなく、よくその中間を保つ者。」（識別章第６７節）

親愛なるムスリムの皆様。アッラーから私たちに与えられた、生命、健康、連れあい、子供、地位、財産、富といったものは全て、私たちに信託として下されたものです。だから、これらの恵みを浪費したかどうか、さらにはどこで誰の為に費やしたかということにおいて、私たちは勘定を問われることになります。この件については次のように啓示されています。

「その日あなたがたは、（現を抜かしていた）享楽に就いて、必ず問われるであろう。」（蓄積章第８節）預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は、「最後の審判の日、人は、生涯をどこで費やしたか、行なった事業はどのような意志で行なったのか、どのように利益を得て、どこで出費をしたのか、健康をどこでどのように生かしたのか、ということを問われることなく、アッラーのもとから離れることはない。」とおっしゃられておられます。

親愛なるムスリムの皆様。私たちは普段、無駄遣いについて、パンや水、シャツやズボンといったものにだけ当てはまるかのように振る舞いあ、こういった単純なものでの浪費を避けようとしています。しかし、単純な、日常的な行為の間に、ほとんど意識せず行なっている休息や労働、睡眠、余暇、さらにはおしゃべりといったものにおいても無駄を生じさせ、もっと重要であるはずの時間や人間としてのエネルギーを浪費している、ということに気がついていないのです。

浪費は、崇高なるアッラーが私たちに与えられた恵みに対する恩知らずな振る舞いであり、敬意の欠如でもあります。倹約は、恵みに対する敬意と感謝を行為で示すものです。だから、浪費について注意を払いましょう。他の人たちにも注意を呼びかけましょう。子供たちにもこの認識をもたせるようにしましょう。資源や力は無限ではないということを忘れてはなりません。そして今日、これらの価値はさらに高まってきているのです。

ホトバを、次の章句で締めくくりたいと思います。夜の旅章第２６節及び２７節です。「近親者に、当然与えるべきものは与えなさい。また貧者や旅人にも。だが粗末にしてはならない。浪費は本当に悪魔の兄弟である。悪魔は主に対し恩を忘れる。」